



## ☆ 内田院長就任あいさつ ☆

この度、関口院長の後を引き継ぐ形で、4月1日付で国保町立小鹿野中央病院長を拝命いたしました。大学卒業後は19年間高知県で地域医療に携わり、縁あって平成28年4月から小鹿野中央病院に勤務しております。医師としても人間としても大先輩である先生方がおられる中、私のような若輩者が院長という大役を仰せつかったことに身の引き締まる思いでいっぱいです。これまで多くの方々によって培われてきた小鹿野の医療を受け継いで、さらにこの地域にあった形で展開していく所存です。

皆様にとって「この町に町立病院があってよかった」といわれる病院、職員にとって「町立病院で働いてよかった」といえる病院を作っていくことを目指してまいります。その結果、住民の皆様とともに「この町で暮らし続けることができよかった」といわれる町づくりにつながればと考えます。

皆様には町立病院のよき応援団になっていただけますようお願い申し上げます。

病院だよりには昨年1年間認知症の話（途中からはあやこさんとのぶえさんの物語のようになりましたが・・・）を掲載してまいりましたが、「楽しみにしている」という声を励みに書いておりましたが、今月は就任の挨拶に代えさせていただきます。

次号からは、あやこさんとのぶえさん、あるいは認知症にかかわらず、私が日常の中で感じたことを綴っていくエッセイという形で続けることが出来ればと思っています。

最後に私の好きな言葉を紹介します。

「平和は、笑顔からはじまります」

（マザー・テレサ）

今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

内田 望



## ☆ 関口前院長退任あいさつ ☆

平成30年3月31日をもって、一身上の都合により退職させていただきます。

平成とともに当院の診療に携わってきましたが、次の世代に託す時期と考えました。真央ちゃん、安室さん、そして、平成とともに区切りをつけることには、感慨深いものがあります。世の動きが速いこと、心身の衰えを感じることに、赴任医師が増えたこと等を考えると、よい時期と考えます。多くの職員、住民の皆様のご支援、ご理解、ご協力により、何とか務めを果たせましたことについて、深く感謝申し上げます。整形外科の後任が決まるまで、非常勤の立場で、しばし、控えめに支援していく所存です。

思えば、整形外科医として未熟な状態で赴任し、手探りで診療してきました。埼玉医大での研修を許可され、情報収集、技術の向上、人脈の形成に努めてきました。一人では心もとなく、多くのご支援をいただき、身の丈に合った診療を心がけてきました。十分な成果が出せませんでしたでしたが、それなりに、地域で貢献できたものと自負しています。

診療においては、病気と老化、効果とリスク等の説明が十分でなく、寄り添った対応とならず、不快な思いをされた方もおられたと思います。ご容赦願いたいと思います。

医師不足の真ただ中、平成21年に院長職を拝命しました。能力不足の身には、大きな負担でありました。当時は、増床の影響もあり、数年来の医師不足で、厳しい状況でした。医師会の皆さんをはじめ多くの方のご支援により、徐々に落ち着きを取り戻し、なんとか窮地を脱しつつあります。

経営は、依然厳しい状況です。病棟の増床以来、人件費比率は増し、介護施設が増えるたびに影響を受けてきました。人口が減少し、診療圏が縮小しています。高齢化率は上昇するも、高齢者の絶対数は頭打ち、働き盛り人口は減っています。抜本的な対策の議論が避けられない状況と考えます。

常に“信頼される病院”であることを祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。

関口 哲夫

## ☆☆ 新しい医師に来ていただきました ☆☆

4月より、内科医として藤田和樹先生、荻野太郎先生に来ていただきました。詳細は、次号で紹介させていただきます。

また、3月まで勤務していただきました内科医長の井上公太先生は、4月より香川県小豆島町にある小豆島中央病院へ赴任されました。

4月からの外来の診療科目につきましては裏面のとおりですので、ご案内させていただきます。